

フライシュマン・ヒラード カーターCEOとの懇談会

—ステークホルダーの行動を喚起する企業コミュニケーションのあり方—

2025年2月17日

講師：J. J. カーター

フライシュマン・ヒラード
社長兼 CEO



経済広報センターは2月17日、東京・大手町の経団連会館で、「社会やステークホルダーが多様化・多極化するなか、企業に必要とされる戦略性とグローバルな視座」に関する懇談会を開催した。世界最大級のPR・戦略コミュニケーションファームである米国のフライシュマン・ヒラードのJ. J. カーター社長兼CEOを迎え、企業の広報幹部・担当者ら約50人が参加した。概要は次のとおり。

■事業環境が複雑化するなか、グローバル企業に求められる対応

カーター氏は、環境リスクや地政学・経済的威圧、社会の分断など、グローバル企業はますます複雑化する状況に直面する一方、一層高まるステークホルダーの期待と要求の間で板挟みになっていると指摘。企業のレピュテーション（評判）は流動的かつ繊細で、絶えず塗り替えられると語った。

また、目的性と先見性を備えた戦略的なコミュニケーションによって、リスクの緩和、企業の事業におけるレジリエンスの強化とレピュテーションの向上が可能であると説明した。また、戦略的コミュニケーションの五つの重要な要素として、①企業ナラティブの形成 ②新たなデータ戦略の活用 ③政府や業界を含む独自のインテリジェンス・ネットワークの先んじた構築 ④偽情報の早期発見と対応 ⑤AI活用による競争優位性の獲得——を挙げた。

■企業幹部や広報担当者の心構えと行動

さらにカーター氏は、企業の幹部や広報担当者は、自社のレピュテーションの守り手であることを心し、単に情報発信するコミュニケーションだけでなく、適時適切にメッセージを届け、ステークホルダーの行動を喚起するまでが重要と強調した。

参加者との意見交換では、米国におけるDEI（Diversity, Equity, Inclusion）やSNS規制の動向、政府とその関係組織への対応などに関して、活発に議論した。

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。